

「新聞×AR」の表現アイデアコンテスト 第2回「日経ARアワード」受賞者決定



日本経済新聞社（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：岡田直敏）は、AR（拡張現実）技術を活用した「日経AR」アプリを使って、新聞とARを組み合わせた表現のアイデアを公募する「第2回 日経ARアワード」を開催し、グランプリおよび各賞が決定しました。

9月中旬から10月末までの応募期間にエントリーされた作品の中から「グランプリ」1点、「審査員特別賞」1点、「協賛社賞」4点を選定しました。

各賞の概要は以下の通りです。

○グランプリ

『バッテリーミニショベル「PC30E-5」を見つけろ』

紙面に掲載された多くのショベルカーの中から、コマツのバッテリーミニショベル「PC30E-5」を見つけて日経ARをかざすと、実物の映像が浮かび上がって動き回る

受賞者：湯浅空美子氏

○審査員特別賞

『企業からだけじゃ足りない!』

企業の就活生向け情報や新卒採用広告などに日経ARをかざすと、入社2年目社員によるリアルな視点の「赤入れ」添削が表示される

受賞者：手島悠花氏

○コマツ賞

『そのやさしさは、人と街と未来へと』

紙面に掲載された大きな「窓」を日経ARでスキャンして、自分の家の窓にかざすと、外に工事現場が広がり原寸大のショベルカーがあらわれる

受賞者：白倉拓真氏

○テレビ東京賞

『読み聞かせぶしゅ』

テレビ東京の人気番組「シナぷしゅ」に登場する様々な効果音を日経 AR に活用。親が子供に絵本を読み聞かせる時に AR で音を聞かせる

受賞者：佐野茜氏、大場元人氏

○マイナビ賞

『のぞき見ランチ』

会社のランチ風景の写真が載る新聞広告を日経 AR でスキャンすると、実際のランチタイムの動画があらわれて、その会社の社風や雰囲気を感じることができる

受賞者：齋木悠氏、後藤晃紀氏

○日本経済新聞社賞

『きせかえおしごとたいけん』

男女別の「将来なりたい職業ランキング」のイラストに日経 AR をかざすと、男子の人気職業で女子が、女子の人気職業で男子が活躍する動画があらわれる

受賞者：浦松鉄也氏

※ グランプリ審査は以下の審査員によって行われました。

佐藤達郎氏（審査委員長：多摩美術大学 教授）

中澤純一氏（ENJIN 代表取締役社長）

佐藤雄介氏（電通 クリエーティブ・ディレクター）

久保田瞬氏（Mogura 代表取締役社長）

平田喜裕（日本経済新聞社 専務取締役）

※ 各応募課題は「日経 AR アワード」公式サイト（<https://araward.nikkei.co.jp/>）に掲載しています。受賞作品の詳細や審査講評、受賞者コメントなどは 2021 年 2 月中旬の日本経済新聞および公式サイトで紹介いたします。

<お問い合わせ先>

日経 AR アワード担当：浦野、村山（下記問い合わせフォームからお願いします）

https://esf.nikkei.co.jp/araward_inquiry/

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は 1876 年以来、140 年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約 1500 人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は現在約 206 万部、2010 年 3 月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は 81 万で、有料・無料登録を合わせた会員数は 500 万を上回っています。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表)